

V 本時の目標

(2位数) ÷ (2位数) を計算する活動を通して、(わる数) × (見当をつけた商) > (わられる数) の時に、見当をつけた商を小さくして考えればよいことに気づき、(2位数) ÷ (2位数) の筆算を正しく計算することができる。

VI 本時の展開 (5 / 13時)

過程	学習活動	教師の指導・援助			
つかむ	<p>1 問題を把握し、課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>[問題] 95 ÷ 34 の筆算のしかたを考えましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・前時でやった商の見当が使いそう。 ・商の見当をつけると3になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板で計算し、商を3にすると、わられる数95より大きくなってしまいうことに気付かせる。 			
考える	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〈課題〉見当をつけた商が大きい時には、どのようにすれば良いか考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・計算したとき、わられる数より小さくないとだめだ。 ・3ではなく、小さい数字する。 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>◆実態を見届ける◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習内容の理解度を把握する。(レディネステストや前時までの学習の様子) ・前時までとの違いに気づけているか。(児童の様子) </div>			
深める	<p>2 個人追究をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; padding-right: 20px;"> $\begin{array}{r} 3 \\ 34 \overline{) 95} \\ \underline{102} \end{array}$ </td> <td style="text-align: center; padding-right: 20px;"> $\rightarrow 34 \overline{) 95} \begin{array}{r} 2 \\ \underline{68} \\ 27 \end{array}$ </td> <td style="vertical-align: middle; padding-left: 10px;"> <p>見当をつけた商の3を一の位にたてる。 計算すると、積がわられる数の95より大きくなってしまいう。 だから、商を1小さくして、2を一の位にたてます。 答えは、2あまり27です。</p> </td> </tr> </table> </div>	$\begin{array}{r} 3 \\ 34 \overline{) 95} \\ \underline{102} \end{array}$	$\rightarrow 34 \overline{) 95} \begin{array}{r} 2 \\ \underline{68} \\ 27 \end{array}$	<p>見当をつけた商の3を一の位にたてる。 計算すると、積がわられる数の95より大きくなってしまいう。 だから、商を1小さくして、2を一の位にたてます。 答えは、2あまり27です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えが持てた児童は、考えを整理することができるように、考えが持てた児童同士で考えを交流する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆学習状況を見届ける◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆算をする際に、計算の足跡が残る書き方をしているか、正しく商を修正しているかを見届ける。 </div>
$\begin{array}{r} 3 \\ 34 \overline{) 95} \\ \underline{102} \end{array}$	$\rightarrow 34 \overline{) 95} \begin{array}{r} 2 \\ \underline{68} \\ 27 \end{array}$	<p>見当をつけた商の3を一の位にたてる。 計算すると、積がわられる数の95より大きくなってしまいう。 だから、商を1小さくして、2を一の位にたてます。 答えは、2あまり27です。</p>			
まとめる	<p>3 全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時と同じように、まず商の見当をつける。 ・わられる数より大きくなってしまったら、商を小さくすればよい。 <p>4 ペア交流を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを仲間に説明したり、考えを聴いたりして、筆算のやり方を説明できるようにする。 <p>5 練習問題を解く。(①86 ÷ 24 ②89 ÷ 13)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商を一回小さくしても、まだ商が大きいことに気づき、もう一回小さくすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が本時のねらいに迫られるように、ペア交流を位置付ける。 ・練習問題の答え合わせの場では、困っている児童を意図的に指名する。 困っていることを明確にしてから仲間の考えを聞くようにする。 			
	<p>6 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【まとめ】 商の見当をして、商が大きかった場合は、小さくして商をたてればよい。</p> </div> <p>7 評価問題に取り組む。</p> <p>☆レベル1：例題と同様、商を1回1小さくする2位数 ÷ 2位数の筆算 ☆レベル2：商を2回1小さくする2位数 ÷ 2位数の筆算</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>◆定着状況を見届ける◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の方法で見当をつけ、計算の足跡が残る書き方をさせる。 ・正しく筆算を行い、答えを出すことができているか。 </div>			
	<p>8 自己評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見当をつけた商が大きいときは、商を1ずつ減らして計算することができた。自分の選んだレベルの問題について、仲間と計算方法を交流したことで、筆算のやり方を覚えることができた。 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>評価規準</p> <p>2位数 ÷ 2位数の仮商 (過大商) の修正のしかたが説明でき、筆算のできる。(技能)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習姿勢や態度、学習内容を振り返り自己評価をする場を設け、よかった姿を価値づける。 			